

平成20年度 地方の元気再生事業 事業実施調書

(1) 取組名	庄原市民、NPO、行政との協働による、「さとやま(里山)文化」を活かした元気再生事業		
(2) 実施団体名	庄原市里山文化・元気再生事業ネットワーク協議会	(3) 対象地域	広島県庄原市
(4) 代表団体名	特定非営利活動法人 中国・地域づくりハウス	(5) 推薦団体名	広島県庄原市

(6)実施した取組の内容	取組①	里山の「世話好きおばちゃん達」いきいき元気大作戦事業／コミュニティ活性化事業	
	実施主体	各自治振興区、NPO	
	実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果
		<ol style="list-style-type: none"> おばちゃんたちへのリーダー研修、任意組織の立ち上げ 活動計画の検討・作成 社会実験の実施(例) <ul style="list-style-type: none"> ○主役、名人、芸人探し「ジジバババンク」事業 ○七福神おむすび開発事業 ○お寺で食事会開催事業 	<ol style="list-style-type: none"> ジジバババンクの整備／自治振興区内の人材のリスト化(88地区、約500名分) 帝釈もみじ祭りの20年ぶりの復活／地域資源の再考 狼煙でつなぐ地域をつなぐイベントの実施／市内3地区での祭開催と、甲山城、雲井城、国営備北丘陵公園で狼煙リレーによる地域連携 市内高地区、山内地区でのウォーキングルートの整備・検討 「おんばし工房」のブランド化、もち米を活かした商品開発プロジェクトの検討／七福神餅の販売 市内中心部におけるシンボル樹木の電飾化の実施 事業実施各地区(帝釈、山内など)での事後のワークショップの実施 <p>○取り組みの結果:コミュニティ活性化事業として、多くの事業が企画され、実施できた。地元のコミュニティ活動に対して、外部からの人材が係わることで、新たな視点、発想などが盛り込まれた。</p>
取組②	市域を越えた都市と農山村の共生型観光の実験事業／都市と中山間の広域観光事業		
実施主体	各自治振興区、NPO		
実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果	
	<ol style="list-style-type: none"> 子どもたち向け事業 大人向け事業(例) <ul style="list-style-type: none"> ○家づくり・環境循環を考えるツアー ○環境にやさしいライフスタイルを学ぶツアー等 出身者向け事業 <ul style="list-style-type: none"> ○ふるさと再発見ツアー 全体交流会の開催 	<ol style="list-style-type: none"> 高暮地区での自然体験塾、大収穫祭／自治振興区と連携した都市住民との交流会／広島市内の家族連れなど約50人参加 くunchi市に併せた里山満喫・満腹ツアーの実施／庄原のおばちゃん企画・実施による都市の女性受け入れツアー(参加者計20人) 広島市民が考える庄原で体験したいことワークショップ「僕らは庄原応援団」の実施／総勢約50人で体験メニューを検討 広島駅前エールエール地下での「元気な庄原まるごと紹介」イベントの実施／参加者2,000人、売上額約100万円 団塊世代の体験交流ツアーの実施／福山市内のおばちゃんなどによる体験ツアーの実施／参加者計40人程度 <p>○取り組みの結果:都市と中山間の広域観光・連携事業として、庄原市内及び都市部(広島市)で多くの事業が取り組まれた。従来型の庄原市企画のツアーとは異なる素朴な観光目的(里山の環境や人情に触れること)の再評価、顔が見える関係の重要性、経済面などビジネスの可能性等を期待できた。</p>	

取組③	集落内での「里山暮らし」お試し体験事業	
実施主体	各自治振興区、NPO	
実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果
	1. 対象集落を抽出し、集落での新住民の受け入れ方法検討 2. 集落でのお試し体験住宅の選定又は仮使用可能な空き家探し事業 3. 軽微な改修と清掃後、お試し居住の実施 4. 集落での反省会	①対象集落を抽出し、集落での新住民の受け入れ方法検討 ②集落でのお試し体験住宅の選定又は仮使用可能な空き家探し事業／（使用可能候補地2軒を選定） ③敷信地区・旧宮永医院（空家）の活用検討会、お試し暮らし体験交流会の試行（2日×20人） ④小鳥原地区・中島邸（空家）の活用に向けた地元検討会議・修復作業、活用イベントの実施 ⑤高野地区・岡大内地区空家の見学会実施、同堀江家住宅（空家、藁葺き）を含めた活用見学会 ⑥将来的な活用に向けた研究会の実施 ○取り組みの結果：地域との協働作業により地域の理解が深まり、空き家活用への意識の醸成が進み、今後の複数地域での展開の礎が築けた。
(7)実施体制	平成20年度の取組実施における体制・役割分担	
	○庄原市里山文化・元気再生事業ネットワーク協議会（以下構成団体） ・NPO法人中国・地域づくりハウス（主担当：取組①、取組②） 協議会全体を総括。全体コーディネーターとして事業をアドバイス ・社団法人中国地方総合研究センター（主担当：取組③） 活動全体を総括支援。全体コーディネーター、専門家として事業を調整 ・庄原市自治振興課、商工観光課（担当：①、②、③）：地元関係者との調整 ・庄原市自治振興区連合協議会（担当：①、②）：地元窓口として活動を支援 ・広島県地域政策課交流定住室（担当：③）：空き家活用に関する情報提供 ・県立広島大学（担当：①）：教授、学生などの参加協力、リスト作成支援 ・JA広島中央会、JA庄原（担当：②）：産直市への産物の提供支援 ・NPO法人ひろしまね（担当：③）：空き家改修などのノウハウ、作業の実施 ・NPO法人アースランドフォトネットワーク（担当：③）：庄原市の紹介媒体の作成	取組の実施を踏まえた反省点 ・取組①：地域的なバランス確保や複数の自治振興区間での取り組みなど、地域を越えた連携などが反省点である。また、外部人材と住民との連携が必要であるが、それを検討する場・組織がほとんど無く、事業実施に向けて外部の意見が反映されにくい面がある。さらに、ビジネス化に向けた心理的な抵抗もあり、活発化のあり方（元気な将来像）の検討が必要である。 ・取組②：地域的なバランス確保、庄原市全体としての連携、春から夏間の事業の未実施、都市側への情報提供体制の弱さなどが指摘できる。逆に、都市側からの思い・ニーズを受け止めていく地元窓口や体制も必要である。 ・取組③：「里山暮らし」お試し体験事業では、空き家の掘り起こしと所有者・集落（自治振興区）、都市住民などとの意見調整に時間が取られ、地域全体としての意識の共有化、一部空き家の利用可能化をようやく進んだ段階である。厳冬期ではなく、夏期間でのお試し事業実施を行っていくことが反省点である。所有者・集落・都市住民・行政等が地域の資源活用に向けた話し合いの場をいかに仕掛け、機能させていくかが大きな課題である。
(8)取組により得られた成果	○成果1→ 各取組実施事業における、参加者の多さ（ Σ （取組数×会合数×参加者数））、参加者の多様さ（（男性、子ども）の参加者数の比率）	
	H19	H20（当初予定していた目標）
	大人参加者数 約20人（出前トークを参考）	10事業（取組①、②各5事業）×平均大人参加者数30人
	小学生参加者数 0人	小学生参加者数 延190人（市内小学生児童数の1割）
	H20（実際に得られた成果）	
	・取組①で7事業、取組②で5事業を実施できた。集客数としては各事業とも数10人から1,000人（一般参加者を含む）を超える事業、100万円程度の売り上げが確保されるなど、集客数、金額ともに予想以上に達成できた。参加者アンケートでも良い評価をされる方が多くなっている。 ・地域、行政、外部専門家、都市住民が研究していく場づくりができ、今後の事業展開の大きな下地になった。さらに、国営備北丘陵公園をはじめとする地域の多様な主体が参加する契機になったと評価される。 ・地域住民と都市住民との個人的なネットワーク「顔が見える関係」が大きく育ちつつあり、将来の事業の財産になったと考えられる。	

	○成果2→	集落における体験居住受け入れ件数
		H19
		H20(当初予定していた目標)
		なし
		20組程度
		H20(実際に得られた成果)
		<p>・取組③では、予想以上に空き家の掘り起こし、地元意思統一に時間がかかり、かつ、厳冬期に入ったため、お試し暮らしとしては事業が難しい状況になった。なお、宿泊はしないものの、空き家での交流会として、20人×2回のイベントを実施した。</p> <p>・自治振興区連合協議会を通じて、自治振興区に空き家提供の掘り起こしを求め、2地区で、地元で検討会議(所有者、地元振興区、専門家)が立ち上がるなど、一定の成果がみられた。</p> <p>・さらに、活用方法の検討と所有者・都市住民、地元等が交流するイベントを開催するなど、お試し暮らしに向けた準備が進んだ。また、地域で2軒目以降の空き家の申し出があるなど、受け入れ体制が進むことで、新たな空き家の発掘につながっている。</p>
(9)今年度の取組成果や活動を踏まえた反省点、改善点		<p>・住民自治が盛んな、庄原市の88自治振興区住民の活動に期待したが、人口減少・高齢化が進む中で、住民を中心とした取り組みだけでは限界があり、地域内の多様な主体や都市側との攻めの連携が必要であることが痛感できた。さらに、住民、行政、観光客、NPO、土地所有者等の意識や価値観に多少のズレがあるために合意形成に至らずに事業が進まないといった状況もみられた。こうしたことを解消するために、さまざまな形の開かれたネットワーク(そのためのさまざまな場づくり)が必要であることも明らかになった。</p> <p>・また、既に従来活発化しつつある取り組みに関しては、継続させるための触媒的な機能(変化を付ける、新しい取り組みを行う、新たな担い手を発掘する、手法を変えてみるなど)が求められている。</p> <p>・全体を通じて、現状では、地域が経済的に潤うという状況ではないが、多様な観光メニューの可能性(素朴な里山や景観、暮らしを提供すること)も見いだされ、今後の大きな可能性につながるものと考えられる。</p> <p>・平成22年の「庄原市さとやま博」の開催、中国横断自動車道尾道松江線開通をにらみながら、現在の取組をより一層強化することが必要である。</p> <p>・具体的には協議会参加の各主体のパワーアップと、主体間の連携の強化、より一層の資源の掘り起こしと、経済の活性化、ビジネス化に向けた検討を進める必要がある。</p>
(10)平成21年度以降の活動の見込み	当初提案に予定していた平成21年度以降の展開	今年度の取組状況を踏まえた平成21年度以降の活動の見込みと活用を希望する支援制度
	<p>1. 市域を越えた都市と農山村との共生型観光事業化への展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域バランスへの配慮と現在事業のパワーアップ ・地域を越えた事業(庄原市全体)への取り組み 	<p>1. 里山体験メニュー開発と、里山ライフスタイルの積極的なPR</p> <ul style="list-style-type: none"> ・庄原市さとやま博(平成22年度)に向けた各地域の観光交流事業の掘り起こし ・平成21年度未実施の自治振興区での取り組み <p>[活用を希望する制度:平成20年度取組②に対して継続支援を希望(想定金額700万円)]</p>
	<p>2. 里山暮らしお試し体験事業、及び空き家提供事業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・所有者を含めた地元受け入れ体制の整備 ・お試し暮らしのPR、実施(特に夏季) ・各地域での掘り起こし 	<p>2. お試し暮らし体験、定住支援に向けた事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集落内検討会議の実施(実施地区及び未実施地区) ・お試し暮らしの実施と、体験者と地元との交流会の実施 ・定住化に向けた意見交換会の実施 <p>[活用を希望する制度:平成20年度取組③に対して継続支援を希望(想定金額700万円)]</p>
	<p>3. 地域資源を活用した魅力づくり事業(広域的な個性出し事業)の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元特産品の開発 ・結節機能の検討(産直市、道の駅など) 	<p>3. 地元資源のビジネス化に向けた取り組みの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治振興区での地元産品化、商品化に向けた検討会議の実施 ・ビジネス化に向けた試行/餅、牛肉おこわ、漬け物、着地型観光、体験観光など <p>[活用を希望する制度:平成20年度取組①に対して継続支援を希望(想定金額700万円)]</p>
	<p>4. さまざまな定住事業の実施と、定住環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集落コンシェルジェに向けた取り組み検討 ・空き家バンクや住み替えシステムの検討 	<p>4. 総合的な地元受け入れ体制の検討整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係者間での意見調整の仕組みづくり((仮称)集落コンシェルジェセンターの試行) <p>[活用を希望する制度:地元検討交流会開催支援費用を希望(想定金額200万円)]</p>

庄原市民、NPO、行政との協働による、「さとやま(里山)文化」を活かした元気再生事業(広島県庄原市) - 庄原市里山文化・元気再生事業ネットワーク協議会 -

平成20年度 地方の元気再生事業
事業実施調書 参考資料

◆主な実施取組の内容◆

取組①: 里山の「世話好きおばちゃん達」

いきいき元気大作戦事業

実施主体:自治振興区、中国地域づくりハウスなど
内容・結果:庄原市内での複数地域での事業実施。
全体参加者数数10~数100人程度。



住民熱意もみじも赤く
20年ぶり帝釈祭り
庄原市東城町の帝釈 祝もみじまつりを、2日東城
自治振興区が、10年ぶりに復活させ

る。十月二日、帝釈 祭もある。
開催改訂センターで特 まつりはこれまで旅 匠高なを販売する。 館業者が聞いていた 匠岩の深谷美とをま 早く、台風被害もな
まつりけつんやい が観光客の減少や菓 さまに因く紅葉、 帝 たため色鮮やか。十
のシンのくしき、く 者の高齢化などで休 眠ならでの味を美し 一月上旬が見えで
りおむなを販売す 止、同振興区が地産 光いなる(はし)と語して、旬まで楽しめるとい
るほか、地元大坂ク ぐるみで帝釈観光 いる。(戸田 敬)

狼煙(のろし)リレー風景(庄原市高地区)



帝釈もみじ祭り風景(庄原市帝釈地区)



取組②: 市域を越えた都市と農山村の共生型観光の実験事業

実施主体:自治振興区、中国地域づくりハウスなど
内容・結果:庄原市、広島市内での事業実施。
全体参加者数数10~数100人程度。
里山満喫・満腹ツアー風景(庄原市敷信(しのう)地区)



高暮自然体験塾(大収穫祭)風景(庄原市高野町高暮地区)



庄原で体験したいことを考えるワークショップ風景(広島市内)

元気な庄原まるごと紹介イベント風景(広島駅前エールエール地下)



取組③: 集落内での「里山暮らし」お試し体験事業

実施主体:自治振興区、中国地方総合研究センター、NPOひろしまねなど
内容・結果:空き家の清掃・補修と体験交流を実施。
全体参加者数20人。
庄原市西城町小鳥原(ひととばら)地区の空家(右手の建物)



小鳥原地区空き家整備風景

旧宮永邸(敷地内)



庄原市敷信(しのう)地区の利用予定空家(旧宮永邸全景)

◆取組実施による成果・今後の展開◆

【取り組み実施による成果】

- ・人口減少・高齢化が進む中で、住民を中心とした取り組みだけでは限界があり、地域内の多様な主体や都市側との攻めの連携が必要である。さらに、住民、行政、観光客、NPO、土地所有者等の意識や価値観の多少のズレを解消するため、さまざまな形の開かれたネットワーク(そのためのさまざまな場づくり)が必要である。
- ・全体を通じて、現状では、地域が経済的に潤うという状況ではないが、多様な観光メニューの可能性(素朴な里山や景観、暮らしを提供すること)も見いだされ、今後の大きな可能性につながるものと考えられる。

【今後の展開】

- ・平成22年の「庄原市さとやま博」の開催、中国横断自動車道尾道松江線開通をにらみながら、現在の取組をより一層強化することが必要である。